

# 人には温かさをもって接し、 仕事は極めて楽しむ

旅人に上着を脱がせることができるか。北風と太陽が争うというイソップ寓話(ぐうわ)には、人を動かす力は暴力ではなく、温かさをもって接することという教訓がついてきます。

「やってあげたのに」と言われると「頼んでねえよ」と反発しがちですが、「好きでやっていることだから」と言われると感謝の心になります。理屈ではなくて、これは人の本能だと思います。

人に教える際にも同様のことが言えます。教えたがる人はどこにでもいます。落語家にも多くて、若手からはたいがい「面倒くさい」と思われています。

私にも「教えたい願望」があるものだから、果たして私に教わりたいと思っているのだろうかと自分の気持ちを抑えるようにしています。若手から教えてくださいと言われるまでは、とにかく辛抱と我慢が肝要です。それでも我慢できずに教えてしまって、若手から面倒くさがられたら、「好きでやっていることだから」と言うといいかもしれません。

それから「極め欲」。定年後は趣味でも探して楽しく老後を送りたいという人が時々いますが、どうでしょうね。伊集院静さんは、趣味は急にできるものではないと言っています。そもそも趣味は忙しい仕事の合間を縫ってやるからこそ、面白いし集中もする。極めたいという向上心につながるのだと思います。ラーメンを食べるのが趣味という人はどんなに仕事が忙しくても食べ歩いているし、何よりも楽しんでいる。

人間、楽しめないとだめですよ。それは年齢には関係ないと思います。彩の国シニア応援大使として、生き生きシニアを取材しています。そこで出会うシニア、特に技術屋さんが面白くて、どんなことでも興味を持って楽しんでいる人が多い。きっと職業柄、極めたい、突き詰めたいという欲求が強いからだと思います。

落語家もそうです。この噺はウケないとあきらめたら、そこで終わり。なぜウケないのかを考え抜いて、自分なりに試行錯誤することが面白いし、楽しい。それが芸を磨くことです。

こう考えると、趣味も仕事も同じだと思います。時間をかけるのではなく、集中して取り組むことが楽しさにつながる。集中、極めようとする心構えが大事です。そろそろ定年後のシニアライフを考え始めた私たちの世代には、限られた時間の中で集中し、極めようとするので、仕事をどう面白くするか、どう楽しむかが問われているのかもしれない。



## 三遊亭鬼丸 (さんゆうてい・おにまる)

1972年生まれ。長野県出身、さいたま市在住。故三代目三遊亭圓歌に弟子入り、97年に初高座。

2009年、NHK新人演芸大賞入選。10年、真打に昇進して「鬼丸」を襲名しました。

FM NACK5「GOGOMONZ(ごごもんず)」に出演中です。